



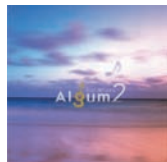
理論派!
柴崎 功が推奨する注目アクセサリ



AER DISC ENERGIZER

¥49,350

●修理時間：約5秒間 ●効果の持続時間：約120分程度 ●単4電池駆動



試験および測定用のディスクは赤坂工芸音研の「Album2／新岡大」(AKL-029)。4曲目ギターソロで再生音の比較を行った



前半がエナジライザー処理前、後半が処理後(ワンプointステレオマイクにはオーディオテクニカAT9940、PCMレコーダーにはオリンパスLS-10を使用)

本邦初の試み／話題のディスク事前処理器 「ディスク・エナジライザー」を徹底解剖

最先端の量子物理学を応用
音質改善波動生成器の種だ

内部はLEDと铸铁で構成
特殊な処理が施されている

AERのディスク・エナジライザーは、最先端の量子物理学を応用した波動制御型音質改善器で、陽子振動を整列させて体調を改善する健康器具が原型となっている。現在は量子物理学の研究が進み、音質改善波動を生成する技術が確立されつつあるが、AERが「陽子振動整列空間を生み出す」と称している本機も、音質改善波動生成器の一種と考えられる。

内部には制御基板、プッシュスイッチ、高効率白色LED2本と青色LED1本、そしてLEDの側面光が当たる位置に铸铁ブロックがある。制御基板内には3Vの電源を約5Vに昇圧する回路があつて常時働いており、ボタンを押すと約4秒間LED群が直流点灯する。たったそれだけなのに、後で述べるように、CDやギターの音質が劇的に改善されるのだ。内部パーツには特

殊な処理が施してあるとのことなので、铸铁ブロックには製造時に音質改善波動が転写されており、LEDから出た光による光電効果で、音質改善波動が周囲の物体や空間に再転写されるのではないかと私は推測する。

使い方は、中央の支柱にCDなどの光ディスクを装填して白いボタンを押すと、内部のLED群が点灯して支柱の先端が白く光り、約4秒後に自動的に消える。電源は単4アルカリ電池2本で、常時スタンバイ電流が流れている。実測消費電流は、スタンバイ時は1μAという微弱電流で、ボタンを押すと35mAの電流が3.7秒流れた後、再び1μAに戻る。

処理前と処理後を録音&測定 再生音もデータでも明確な差が！

音質改善効果の持続時間は約2時間、半径1mの球状空間内にある機器に対して効果があり、効果を受けない場合は5m以上離す必要があるようだ。そこで本機は試験室の隣にある書斎に置き、処理したCDやギターをその都度書斎に持ち込んで処理し、対象物以外には本機の効果が届かないよう配慮した。またLEDの光電効果による除電作用と、内部回路から出る磁力線による消磁効果の影響を排除するた

試験レポート
柴崎 功
Isao Shibasaki

め、試験ディスクは事前に除電と消磁処理を行ってから試験。その際試験位置にマイクを置いて、PCMレコーダーで96kHz/24ビット録音も行った。録音はまず処理前の音を取録し、録音ポーズ状態でエナジライザー処理して、それから処理後の音を取録した。

聴感的には分解能が向上 奥行きや広がり感も増す

処理時間がたった4秒弱なので半信半疑であったが、劇的な音質変化に驚かされた。しかもこの音質変化はレコーダーの再生音でも確認でき、波形データにも明確な差として表れたのだ。CD再生時の波形は前半が処理前、後半が処理後であるが、処理後は山が高く谷が深くなり、隣接する山どうしの分離が鮮明になっている。聴感的には分解能が向上し、きめ細かくてしっとりした音になり、ダイナミックレンジが上下に延びて、抑揚がより豊かで伸び伸びした音になる。そして音場の奥行きや広がり感が増して、非常に生き生きするのだ。フォークギターやエレキギター群でも同様の効果があり、特にレスポールカスタムは、信じてほしいほどの良い音に変貌した。その差は、録音した音をパソコンで再生しても判るほどである。本機はオカルト機器と思われがちだが、試験位置で録音したPCMデータ再生音や、その波形データでも明確な差が出た。「信じる者は救われる」といふ、本物の音質改善器なのだ。